

巻頭の挨拶

かつて我が国にインターネットが普及しはじめた初期、TRAINという名の学術系地域ネットワークがあった。それは、当時の大学にインターネットの安定した利用環境をもたらすのに貢献し、7年間活動すると、活動を止め、組織を解散した。その活動の痕跡は何も残っていない。ただ、当時そのネットワークの構築や運用に携わった人が残っていて、未だにネットワークをやっている。間もなくこんなふうに語られることになるだろうと思います。今ではインターネットの利用は飲み水がほしければ水道の蛇口をひねるのと同じように、容易に利用環境が手に入る時代になりつつあります。その昔、美味しい水を求めて澤の源流の泉をたずねたり、深く井戸を掘る人達がいました。TRAINが解散して一年経って、TRAINに関わった人々によるTRAINの活動の歩み、すなわち活動報告書をお届けします。

実は、TRAINで得た技術や運用の経験は、TRAINに加入した各大学のネットワークに伝わり、そこに生かされています。TRAINの活動でネットワークの有効性とそのネットワークを作る喜びを知った人達は、TRAINの時代には想像がつかなかったようなネットワーク運用の広い分野の仕事に乗り出したり、新しいネットワークの応用分野を切り拓く仕事に没頭しています。そこにTRAINのボトムアップの精神が生きていると思っています。

ある事業を構想し、構築し、運用し、そしてそれを終息させてみると、物事の全体が見えてくるように思えます。それから、全体を感じながら新しい仕事を進めることができる目が養われるのではないかということに気がきます。TRAINの経験が、いろいろなところで、更に多くの人によって生かさ

れることを望みます。

TRAIN がもたらしたネットワーク利用環境は、それ以前のものと比べると格段に便利なものでした。それをみずから努力で手にいれることができたので、TRAIN は成功した事業ということになります。しかし、みずから、といっても実は相当に助けられました。また、TRAIN 以前の TRAIN 程は成功しなかったネットワークに携わり、ユーザによるネットワークコミュニティの役割の効用を喚起し、その創設に尽力した先人達のおかげによって、多くの人々との協力で、ボトムアップのネットワーク構築と運用ができるようになったことも思い出されます。井戸掘り人は、私どものずーと前にいたのでした。

TRAIN の準備から解散、残務処理に至るまでにご指導いただいた方々、お世話になった方々、ともに携わっていただいた方々に深く感謝します。

2000年2月26日 自宅の仕事場で 林 英輔